

学生の視点から考える介護のやりがいとは — 介護実習Ⅱを通して学んだ学生の気づきから —

三宅真奈美, 辻 真美, 三宅美智子, 熊谷佳余子, 居村 貴子, 山田 順子

Rewards of Care Seen from the Student's Perspective — Based on What Students Who Finished Care Training Noticed —

Manami MIYAKE, Mami TUJI, Michiko MIYAKE,
Kayoko KUMAGAI, Takako IMURA and Junko YAMADA

キーワード：介護, やりがい, 指導, 対人援助

概 要

本稿では, 1年次に行われる介護実習Ⅱの施設介護実習(高齢者施設14日間)後の振り返りとして, 実習直後に学生がまとめたレポート(指導者, 職員からの指導, 対人援助職として指導を受けたこと, 実習を終えて介護福祉士としてのやりがい)を分析し, 学生の視点から介護現場のやりがいとは何かを把握することを目的とした。結果, 学生は, 個別的な介護をする上でメモを活用すること, メモを見て確認すること, メモを基に目標を明確にし, 実習で学びたいことを指導者に伝えていた。学生は, 実習生として敬語を使う, メモをとるなど基本的な指導が介護を学ぶ上で重要であるか気づくことのできた実習であった。また, 介護技術の手技だけでなく, 尊厳を守りながらも安全に配慮するといった介護の基本理念を基に一人ひとりに合った介護技術をアセスメントし実践していた。利用者の気持ちを察すると, その想いに答えきれないときストレスを抱えやすい仕事でもある。しかしその反面, 学生は, 利用者に直接かかわるからこそ, 利用者からの「ありがとう」という感謝の言葉に歓喜し, 利用者の笑顔を引き出すことがやりがいにつながると感じていた。

1. はじめに

2015年10月のわが国の総人口は1億2,711万人であり, そのうち65歳以上の高齢者人口は3,392万人となり高齢化率26.7%の過去最高となった¹⁾。さらに, 介護保険の要支援, 要介護者数は6,186,335人²⁾となり, 介護保険の初年度数の2,181,621人³⁾と比較すると約3倍に増加している。その一方, 介護福祉士登録者数は1,408,553人⁴⁾となっているが潜在的有資格者も多く福祉現場では, 人材不足により介護の質の低下が懸念されている。また, 常勤での介護労働者の離職率は, 産業界と比較するとやや高く, 国の離職者対策は早急な課題である。介護現場で介護福祉士が, 働きやすく, 介護のやりがいを感じられる施設づくりができれば, 利用者もよりよい生活となり, 介護の質も向上すると考える。

そこで, 介護福祉士養成における介護実習は, 利用者の生活に触れる貴重な機会であるとともに, 介護現場の実態や介護職員の介護する上でのやりがい, どんな環境があれば働きやすいのかを知る機会にもなる。将来介護現場を担う学生の視点から介護現場のやりがいとは何か把握することを目的とした。

2. 研究方法

1) 研究対象

2015年入学生のうち, 1年次に行われる介護実習Ⅱ(高齢者施設14日間)を終えた学生33人を対象とした。介護実習Ⅱは, 1年後期に行われる高齢者施設での集中実習である。この実習目標は, 講義・演習・学内実習で学んだ知識・技術に基づいて, 利用者との人間的なかわりを深め, 利用者のニーズに関する理解力, 判断力を養う。さらに, 介護技術の基本を踏まえたうえでの日常生活支援が実践できるとしている。

2) 分析方法

2015年11月に行われた介護実習Ⅱを終えた学生33人

(平成28年11月28日受理)
川崎医療短期大学 医療介護福祉科
Department of Care Work, Kawasaki College of Allied Health Professions

を対象に、実習直後の12月に振り返りとして作成したレポートを分析した。そのうち、①指導者、職員からの指導、②対人援助職として指導を受けたこと、③実習を終えて介護福祉士としてのやりがいについて学生の記述した文章を分析した。

解析するツールとして、形態素解析ソフト「茶釜2.1」を用いてテキストマイニング手法で分析を行った。「茶釜」とは奈良最先端科学技術大学院大学自然言語処理学講座からリリースされた、フリーソフトウェアの日本語形態素解析器である。このソフトを使えば、自由回答や個人の日記のようなデータから、その人がどのようなことばをたくさん使うのか、と言ったことを選び出すことができる⁵⁾。

テキストマイニングにおいて、もっとも重視される品詞は、分析対象となる文字データを表す「名詞」であり、そのうち「名詞—一般」「名詞—サ変」の形態素を分析した⁶⁾。その得られた形態素データをExcelに取り込み集計を行った。そのうち、出現頻度が3回以上の形態素を分析対象とし、さらに、SPSS for Windows Ver. 14.0を用いて形態素同士の関連性を検討するため、主成分分析を行った。

3) 倫理的配慮

対象者に対し、口頭で以下のことを説明した。分析結果は、本研究目的以外には使用しない、分析にあたり個人が特定されることはないこと、プライバシーの保障はされること、データは厳重に保管し他に使用しないこと、成績評価とは無関係であることを説明した。レポート提出をもって、本研究に同意したこととみなした。

3. 結果

1) 形態素の抽出

介護実習Ⅱの振り返りのレポートについてテキストマイニングを行った結果、総抽出語は1,879語であった。

2) 出現頻度上位語

(1) 指導者、職員からの指導

「指導者、職員からの指導」については、表1の通り名詞サ変接続では、「指導」、「介護」および「実習」が上位を占めていた。

名詞一般では、「利用者」、「自分」および「介助」が上位を占めていた。また、「声かけ」および「職員」も頻度は多く、利用者と関わるうえで声かけや介助に関する指導者からの指導が多かった。

表1 指導者、職員からの指導出現頻度（上位5位）

順位	名詞サ変接続	頻度	名詞一般	頻度
1	指導	19	利用者	71
2	介護	13	自分	30
3	実習	7	介助	28
4	安心	6	声かけ	24
5	移乗	6	職員	24

(2) 対人援助職として指導を受けたこと

「対人援助職として指導を受けたこと」については、表2の通り名詞サ変接続では「介護」、「話」および「指導」が上位を占め、名詞一般では「利用者」、「コミュニケーション」および「自分」が上位を占めていた。

表2 対人援助職として指導を受けたこと出現頻度（上位5位）

順位	名詞サ変接続	頻度	名詞一般	頻度
1	介護	9	利用者	82
2	話	8	コミュニケーション	33
3	指導	6	自分	26
4	安心	5	職員	18
5	仕事	5	声	17

(3) 実習を終えて介護福祉士のやりがい

「実習を終えて介護福祉士のやりがい」については、表3の通り名詞サ変接続では、「仕事」、「実習」および「介護」が上位を占め、名詞一般では、「利用者」、「笑顔」および「やりがい」が上位を占めていた。

表3 実習を終えて介護福祉士のやりがい出現頻度（上位5位）

順位	名詞サ変接続	頻度	名詞一般	頻度
1	仕事	15	利用者	96
2	実習	8	笑顔	33
3	介護	8	やりがい	22
4	生活	7	自分	19
5	感謝	7	人	15

3) 形態素間の共起関係

形態素間の共起関係、同時に出現する単語の組み合わせとその度合いから、形態素同士の関連を分析するため、主成分分析を行った。

(1) 指導者、職員からの指導

「指導者、職員からの指導」に関する項目では、表4の通り、名詞サ変接続に関する言葉は25言葉のうち10言葉までで81%が説明できた。主成分分析を行った結

果、第1成分として「メモ」、「施設」、「介護」および「理解」、さらに第2成分として「食事介助」、「入浴介助」、「確認」が挙げられた。

「指導者、職員からの指導」に関する項目を分析した結果、表5の通り、名詞一般に関する言葉は26言葉のうち11言葉までで80%が説明できた。「足」、「やり方」、および「車いす」が大きく影響していた。さらに、第2成分として「職員」、「具体」および「積極」が挙げられた。

(2) 対人援助職として指導を受けたこと

「対人援助職として指導を受けたこと」に関する項目を分析した結果、表6の通り、名詞サ変接続に関する言葉は12言葉のうち5言葉で67%が説明できた。「実習」、「介護」および「仕事」が大きく影響していた。第2成分として「安心」、「排泄」が挙げられた。

「対人援助職として指導を受けたこと」に関する分析した結果、名詞一般に関する言葉は27言葉のうち11言葉までで78%が説明できた。主成分分析を行った結果、

表7の通りコミュニケーションに関する言葉が多く挙げられた。第1成分として「非言語」、「ジェスチャー」、「耳元」および「声」、第2成分として「耳」、「ベッド」が挙げられた。

(3) 実習を終えて介護福祉士のやりがい

「実習を終えて介護福祉士としてのやりがい」に関する項目を分析した結果、名詞サ変接続に関する言葉は14言葉のうち7言葉までで85%が説明できた。主成分分析を行った結果、表8の通り、第1成分として「信頼」、「努力」、「成長」および「話」、さらに第2成分として「食事」、「変化」が挙げられた。

「実習を終えて介護福祉士としてのやりがい」に関する項目を分析した結果、名詞一般に関する言葉は21言葉のうち8言葉までで77%が説明できた。主成分分析を行った結果、表9の通り、第1成分として「命」、「人」、「人生」および「関わり」、第2成分として「リハビリ」、「笑顔」および「介護福祉士」が挙げられた。

表4 指導者、職員からの指導に関する主成分分析結果（名詞—サ変）

	第1成分	第2成分	第3成分	第4成分	第5成分	6	7	8	9	10
メモ	0.85	-0.03	-0.04	-0.03	-0.12	-0.02	0.03	-0.11	-0.02	-0.10
施設	0.84	-0.05	0.04	0.07	0.19	-0.02	0.01	0.03	0.10	-0.19
介護	0.78	-0.18	-0.14	-0.11	0.15	-0.09	-0.20	-0.03	-0.14	0.24
理解	0.67	0.09	-0.05	-0.11	-0.28	-0.10	-0.01	0.58	0.01	0.13
食事介助	-0.10	0.92	-0.05	0.02	-0.05	-0.10	0.23	-0.09	0.13	-0.10
入浴介助	-0.09	0.86	-0.07	0.03	-0.06	-0.06	-0.28	0.03	-0.13	0.21
確認	0.07	0.81	0.33	-0.02	-0.07	0.07	0.24	-0.09	-0.01	-0.19
支援	0.05	0.07	0.89	-0.10	-0.13	0.13	-0.03	-0.06	0.15	-0.03
介護者	-0.13	0.16	0.79	0.09	0.17	-0.11	-0.14	-0.02	0.00	-0.06
安心	0.12	-0.26	0.52	-0.12	-0.06	-0.31	-0.04	-0.25	0.20	0.52
指導者	-0.03	-0.01	0.51	-0.08	-0.10	0.22	0.44	0.20	-0.40	-0.01
排泄介助	-0.05	0.17	0.00	0.96	0.06	0.15	-0.06	0.00	0.06	-0.01
入浴	0.01	-0.08	-0.03	0.95	-0.13	-0.08	-0.01	-0.05	-0.06	0.04
移乗	-0.02	0.08	-0.04	0.56	0.20	-0.08	-0.05	-0.01	-0.01	-0.41
端座位	-0.04	0.04	-0.02	0.02	0.94	0.00	-0.07	0.06	0.02	-0.09
一緒	-0.09	-0.17	0.02	0.01	0.92	-0.10	-0.04	-0.04	0.03	0.18
挨拶	0.05	-0.05	0.26	0.05	-0.04	0.86	-0.01	-0.02	0.07	0.05
行動	-0.01	-0.10	-0.22	-0.03	-0.07	0.74	-0.09	-0.13	0.07	0.10
排泄	-0.02	0.01	-0.10	-0.06	-0.05	-0.08	0.91	0.00	0.04	0.03
質問	-0.14	-0.10	-0.06	-0.05	-0.09	-0.08	0.69	0.60	0.06	0.11
見学	0.01	-0.10	-0.03	-0.01	0.10	-0.09	0.09	0.91	0.06	-0.11
観察	-0.04	0.09	0.05	-0.01	0.24	-0.11	0.22	0.15	0.79	-0.28
実習	-0.07	-0.08	0.12	-0.01	-0.16	0.33	-0.11	-0.01	0.78	0.19
指導	-0.19	-0.24	-0.18	-0.05	0.24	0.40	0.14	-0.01	-0.12	0.72
話	0.30	-0.12								
固有値	3.23	2.78	2.58	2.33	2.20	1.99	1.67	1.46	1.16	1.04
寄与率	12.92	11.12	10.33	9.33	8.78	7.97	6.69	5.83	4.63	4.15
累積寄与率	12.92	24.08	34.36	43.69	52.48	60.45	67.14	72.97	77.60	81.75

表5 指導者, 職員からの指導に関する主成分分析結果 (名詞—一般)

	第1成分	第2成分	第3成分	第4成分	第5成分	6	7	8	9	10	11
足	0.98	-0.06	-0.04	0.01	-0.02	-0.08	0.01	-0.04	-0.02	-0.03	0.00
やり方	0.95	0.07	-0.03	0.02	-0.01	0.17	-0.06	0.04	-0.03	0.00	0.03
車いす	0.95	-0.12	-0.06	0.08	-0.11	-0.11	-0.04	-0.07	-0.07	-0.02	0.01
職員	-0.08	0.88	-0.04	0.01	-0.14	-0.01	0.12	0.02	-0.13	0.01	-0.06
具体	0.04	0.72	-0.09	0.07	-0.08	0.30	-0.24	0.16	-0.10	0.10	-0.01
積極	-0.09	0.67	0.10	0.14	0.13	-0.28	0.27	-0.10	0.17	-0.18	0.07
声	-0.07	0.00	0.92	-0.02	0.02	-0.10	0.06	-0.01	0.05	0.03	0.00
コミュニケーション	-0.10	-0.12	0.73	0.23	0.03	-0.19	0.24	-0.01	-0.08	-0.16	0.16
根拠	-0.07	-0.06	-0.11	-0.84	-0.10	-0.04	-0.02	-0.08	-0.18	0.18	0.02
技術	-0.07	-0.10	-0.06	-0.78	-0.14	-0.09	-0.10	-0.10	0.13	-0.08	-0.15
方法	-0.13	-0.20	-0.16	0.41	-0.35	0.03	-0.36	-0.33	-0.38	-0.04	-0.04
1つ	-0.04	-0.10	-0.02	0.09	0.86	-0.14	-0.04	0.06	-0.01	0.12	0.03
声かけ	-0.13	-0.05	0.05	0.17	0.81	0.12	-0.16	-0.16	-0.26	-0.02	-0.07
自分	-0.03	0.06	-0.06	0.22	0.02	0.70	0.32	0.29	0.11	-0.05	0.01
気持ち	-0.07	0.06	-0.10	0.20	0.00	0.67	-0.20	-0.33	-0.14	-0.14	-0.14
利用者	-0.07	0.11	0.33	0.38	0.11	-0.61	0.04	-0.05	-0.01	-0.05	-0.17
関わり	-0.05	0.03	0.16	0.12	-0.12	0.05	0.83	-0.11	-0.12	0.01	-0.01
情報	-0.09	0.19	0.04	-0.02	-0.16	-0.08	0.65	-0.11	-0.10	0.63	-0.08
目標	0.00	0.26	-0.11	0.04	-0.12	0.27	-0.11	0.80	-0.07	-0.02	-0.07
手	-0.09	-0.12	0.02	0.13	0.04	-0.15	-0.06	0.79	-0.09	-0.08	-0.07
基本	-0.08	-0.09	-0.16	0.02	-0.08	-0.04	-0.08	-0.08	0.81	-0.02	0.09
笑顔	-0.06	-0.04	0.25	0.03	-0.17	0.04	-0.09	-0.09	0.79	0.00	-0.33
他職種	-0.06	-0.12	-0.10	-0.13	0.19	-0.06	0.05	-0.02	-0.01	0.91	-0.11
人	-0.15	-0.24	-0.44	-0.20	0.06	0.02	0.30	0.22	-0.09	-0.45	-0.07
介助	-0.15	0.08	0.31	-0.01	0.15	0.14	0.02	-0.14	-0.13	-0.16	0.77
学校	0.33	-0.17	-0.16	0.20	-0.29	-0.19	-0.10	-0.05	0.00	0.00	0.68
固有値	3.38	2.78	2.52	2.29	1.95	1.72	1.58	1.40	1.24	1.10	1.01
寄与率	12.99	10.69	9.69	8.80	7.50	6.62	6.08	5.37	4.76	4.22	3.88
累積寄与率	12.99	23.68	33.37	42.17	49.67	56.28	62.37	67.73	72.50	76.71	80.60

表6 対人援助職として指導を受けたことに関する主成分分析 (名詞—サ変)

	第1成分	第2成分	3	4	5
実習	0.92	-0.11	-0.07	0.02	-0.02
介護	0.89	0.09	-0.07	-0.09	-0.05
仕事	0.77	-0.15	-0.08	-0.01	0.00
安心	-0.04	0.79	-0.09	-0.06	-0.09
排泄	-0.06	0.75	-0.10	0.23	-0.06
交換	-0.13	0.52	-0.13	-0.37	0.12
話	-0.13	-0.15	0.77	-0.11	-0.06
会話	-0.11	-0.12	0.75	-0.10	-0.07
指導	0.03	-0.18	-0.15	0.76	0.05
意識	-0.16	0.27	-0.07	0.63	-0.12
挨拶	-0.12	-0.14	-0.16	-0.11	0.87
報告	-0.28	-0.37	-0.48	-0.33	-0.49
固有値	2.46	1.93	1.35	1.26	1.05
寄与率	20.51	16.08	11.27	10.49	8.75
累積寄与率	20.51	36.59	47.85	58.34	67.09

表8 実習を終えて介護福祉士としてのやりがいに関する主成分分析 (名詞—サ変)

	第1成分	第2成分	3	4	5	6	7
信頼	0.94	-0.03	0.01	0.05	-0.02	-0.07	-0.01
努力	0.87	-0.12	-0.10	-0.01	-0.10	0.11	0.11
成長	0.79	-0.14	-0.22	-0.09	0.32	-0.12	-0.10
話	0.76	0.49	0.01	0.01	-0.09	-0.03	-0.05
食事	-0.06	0.91	-0.13	-0.18	-0.01	-0.18	0.01
変化	-0.07	0.76	-0.13	0.30	0.01	0.45	-0.11
実習	-0.10	-0.09	0.89	-0.07	0.17	0.07	0.00
感謝	-0.07	-0.09	0.78	0.06	-0.09	-0.20	-0.10
支援	-0.14	-0.03	-0.17	0.88	-0.04	-0.12	-0.15
介護	0.20	0.02	0.25	0.76	0.26	0.03	0.30
仕事	-0.10	-0.10	0.19	0.13	0.89	0.05	-0.14
生活	0.23	0.21	-0.36	-0.01	0.63	-0.29	0.32
食事介助	-0.03	-0.01	-0.09	-0.11	-0.05	0.93	0.04
排泄介助	-0.04	-0.07	-0.10	0.02	-0.04	0.03	0.96
固有値	3.17	2.11	1.73	1.46	1.30	1.12	1.04
寄与率	22.63	15.05	12.39	10.43	9.31	8.01	7.45
累積寄与率	22.63	37.68	50.06	60.49	69.80	77.81	85.26

表7 対人援助職として指導を受けたことに関する主成分分析 (名詞—一般)

	第1成分	第2成分	第3成分	第4成分	第5成分	6	7	8	9	10	11
非言語	0.84	0.09	0.05	-0.12	0.04	-0.15	-0.20	-0.13	-0.02	-0.05	0.08
ジェスチャー	0.78	0.09	-0.13	-0.05	-0.11	-0.10	0.12	-0.38	-0.03	-0.11	0.08
耳元	0.77	-0.12	-0.11	0.01	-0.10	0.11	0.11	0.26	-0.06	0.02	-0.06
声	0.75	-0.09	0.27	0.07	0.08	-0.04	0.26	0.28	0.14	0.15	0.10
耳	0.07	0.91	0.02	-0.03	0.08	0.05	-0.08	0.03	0.11	0.12	-0.11
ベッド	-0.12	0.83	-0.02	-0.02	0.04	0.14	0.01	0.15	0.05	-0.33	0.15
利用者	0.00	-0.54	0.43	0.10	-0.12	0.21	0.05	0.33	0.27	-0.07	-0.02
居室	-0.07	-0.08	0.84	-0.02	-0.03	-0.02	0.11	0.05	0.02	-0.06	0.09
寝たきり	0.10	0.09	0.66	-0.12	0.36	-0.13	-0.09	-0.02	-0.08	0.25	-0.21
体	-0.02	-0.01	0.00	0.91	-0.04	-0.06	-0.03	0.02	-0.01	0.10	0.12
先輩	-0.07	-0.11	-0.04	0.77	-0.01	-0.07	-0.01	0.11	0.06	-0.27	-0.24
自分	-0.04	0.06	-0.15	0.65	0.35	0.16	-0.15	-0.30	-0.06	0.33	0.16
声かけ	-0.06	0.24	-0.20	-0.01	0.67	-0.13	0.18	0.08	0.12	0.13	-0.25
職員	-0.10	-0.14	-0.20	-0.24	-0.64	-0.12	0.15	0.31	-0.17	0.34	-0.05
介助	-0.05	0.03	0.38	-0.14	0.64	-0.07	-0.05	0.17	0.13	0.22	0.31
目	0.08	0.13	-0.05	-0.09	-0.57	-0.11	-0.17	0.01	0.30	0.34	0.09
言葉	-0.10	-0.17	-0.06	-0.07	-0.06	0.87	-0.12	-0.22	0.07	0.09	0.05
一つ	-0.06	0.36	-0.04	0.00	0.05	0.86	-0.02	0.05	-0.07	0.01	0.03
顔	-0.07	0.01	-0.17	-0.07	0.05	-0.12	0.85	-0.29	0.04	0.09	0.09
笑顔	0.27	-0.08	0.44	-0.10	0.01	-0.04	0.72	0.11	-0.06	-0.02	0.08
最初	0.41	-0.16	0.26	0.04	0.23	0.01	0.51	0.31	0.18	-0.16	-0.22
心	-0.04	-0.11	-0.06	0.00	0.00	0.13	0.11	-0.80	0.08	0.00	0.02
身	-0.13	-0.09	-0.20	-0.10	0.01	-0.12	-0.07	0.17	-0.71	0.02	0.14
コミュニケーション	0.23	-0.27	0.18	-0.01	-0.08	0.38	0.23	0.08	-0.62	0.15	0.23
気持ち	-0.10	-0.23	-0.24	-0.18	0.16	-0.02	0.13	0.27	0.60	0.08	0.31
1つ	0.03	0.08	-0.05	-0.02	0.03	-0.10	-0.05	0.00	0.03	-0.86	-0.04
情報	-0.10	-0.02	-0.01	-0.02	0.06	-0.07	-0.07	0.05	0.08	-0.04	-0.89
固有値	3.69	2.63	2.41	2.15	2.11	1.68	1.54	1.47	1.35	1.17	1.10
寄与率	13.65	9.76	8.91	7.98	7.80	6.23	5.71	5.43	5.01	4.32	4.08
累積寄与率	13.65	23.41	32.32	40.29	48.09	54.32	60.03	65.46	70.47	74.79	78.87

表9 実習を終えて介護福祉士としてのやりがいに関する主成分分析 (名詞—一般)

	第1成分	第2成分	第3成分	第4成分	第5成分	6	7	8
命	0.88	0.03	-0.03	0.07	0.02	-0.07	0.07	-0.02
人	0.69	-0.16	-0.07	-0.10	-0.22	0.32	0.10	0.04
人生	0.66	-0.15	-0.06	-0.17	0.06	-0.16	-0.11	-0.11
関わり	0.62	0.10	-0.10	0.62	0.00	-0.16	0.02	0.16
リハビリ	-0.06	0.91	-0.09	-0.05	-0.04	0.08	0.00	-0.18
笑顔	-0.28	0.84	0.03	0.10	0.00	-0.13	0.18	-0.05
介護福祉士	0.12	0.80	0.07	0.09	-0.04	-0.05	-0.08	0.40
言葉	-0.02	-0.06	0.89	-0.07	-0.12	-0.11	-0.06	-0.10
気持ち	-0.11	0.00	0.88	0.20	0.11	-0.06	-0.10	0.01
介護職	-0.04	0.04	0.81	-0.08	-0.02	0.00	0.03	-0.05
顔	-0.12	-0.12	0.03	0.80	-0.01	0.34	-0.17	-0.03
利用者	-0.06	0.35	0.00	0.65	0.06	-0.11	0.32	-0.14
声かけ	-0.09	-0.02	-0.13	-0.20	0.81	0.03	-0.17	-0.04
介助	0.28	-0.18	0.02	0.22	0.64	0.24	0.34	0.10
自分	-0.21	0.06	0.24	0.45	0.63	-0.23	0.13	-0.03
コミュニケーション	-0.02	0.05	-0.04	0.07	-0.11	0.88	-0.04	0.22
声	-0.08	-0.10	-0.13	0.02	0.16	0.72	-0.10	-0.22
職員	-0.21	0.15	-0.11	-0.04	0.04	-0.08	0.87	0.02
学	0.43	-0.06	-0.01	0.09	-0.02	-0.08	0.73	-0.03
家族	-0.08	-0.01	-0.06	-0.21	-0.17	0.09	-0.13	0.85
やりがい	0.02	0.01	-0.18	0.24	0.39	-0.12	0.25	0.71
固有値	3.13	2.90	2.45	2.14	1.78	1.53	1.26	1.10
寄与率	14.92	13.79	11.67	10.20	8.48	7.27	5.98	5.25
累積寄与率	14.92	28.72	40.38	50.58	59.06	66.33	72.32	77.57

4. 考 察

1) 「指導者、職員からの指導」から考えられること

(1) 基本的な学ぶ姿勢について

表4より、学生は、指導者、職員からの指導からメモの重要性を理解していることが考えられる。学生の記述を見ると「メモをとってからの情報、いらぬ情報を整理していく」とあった。また、利用者、施設の利用を深めるために、学生は介護に関する内容をメモし、情報を整理していくように指導者から指導を受けていた。さらに、学生のレポート内容から、学生は「目標を言う前は事前にメモで文章化する」と記述しており、実習先でメモの活用方法や情報整理を行ううえでメモの必要性を指導してもらっていた。

学生は、メモを通して日々の目標を練ったり、質問したり職員に報告すべきこともメモしていた。また、学生は自ら実習で学びたいことを指導者に伝え、積極的に実習に取り組むためにもメモは重要であるという指導を受けていたと考えられる。

さらにリスクが高い食事介助や入浴介助を行うとき、利用者の安全な姿勢や状態であるか常に確認しながら支援することが大切であり、急変しやすい動作ゆえに観察力も必要であることを学んでいる。

学生は、指導者からメモのとり方の具体的な指導を受け、一度言われたことを忘れないようにすること、メモしたことを常に確認しながら利用者の安全面を考慮した介助を行い、介護技術の標準化につなげていた。さらにメモを活用し、学生は具体的な目標（実習でこれが学びたいとの内容の具体化）を立て、積極的な実習を行っている。また、自ら学ぼうとしなければ得るものが少ないということへの理解も実習を通して学ぶことができていた。

赤沢⁷⁾は、初期実習から受けた自己変化を学生が自己覚知することが大切であると述べている。自己を見つめ、実践可能な日々の目標を立案していくことで、目的意識をもち、実習に取り組み、記録により振り返ることで自己の変化に気づくことができると考える。

(2) 個々に応じた介護技術について

学生の記述を見ると、学生は指導者より、個々に応じた介護技術について「介護技術の基本+職員の介護技術+利用者の3つで考えるといい」と指導を受けていた。介護技術を行う上では基本的な知識や技術が重要となるが、それと同時に利用者の状態や介護者の体格などによってやり方（介助方法）の指導を受けてい

る。特に、車いすへの移乗は介護者の支える手や足の位置を変えるなど、尊厳や安全の観点からも様々なやり方（介助方法）がある。学生は車いすの移乗に関してどの介護技術よりも個別性の高いことを学んでいる。なぜこのような方法で行っているのか根拠ある介護を学ぶ機会となっているのではないかと考える。

また、利用者の安全な生活を支えるうえで、介護福祉士の安全な姿勢や環境を整えていくことも重要である。そのためには介護者の身体に負担が少ない介護技術を指導できる介護福祉士が必要となる。介護福祉士は利用者の身体の自然な動きを理解し、よって、介護者を指導できる体制をそれぞれの施設で整えていく必要がある。それぞれの介護現場で介護技術の指導体制が整えば、学生は、介護実習が充実したものとなり、介護の質の向上にもつながり、介護現場ではやりがいに通ずるものになると考える。

2) 対人援助職としての指導を受けたこと

学生の記述より、学生は指導者から「利用者さんがいるからこういう仕事ができている。介助をしているというよりさせてもらっている」との指導を受けていた。尊厳を守るべく利用者の立場で考えるよう指導を受けており、基本的人権の尊重の視点も学ぶことができていた。

さらに、表6より、介護の仕事は、排泄や入浴など利用者のプライバシーに関わるが多いため、学生は、より利用者の想いを大切にできる関わりを意識して行っていく必要があることを実習で学んでいた。おむつ交換などの排泄介助で、学生は利用者が羞恥心を抱かず安心してもらえる会話を心がけることや、利用者の状態を観察し、些細な気持ちの変化にも気づき、その時にどんな支援を必要とするのか判断できる力が対人援助職には求められていることが理解できた実習となったともいえる。

学生は対人援助職として、利用者の想いを汲み取るためには言語的コミュニケーションだけではなく、ジェスチャーなど非言語的コミュニケーションを図っていくことが重要であることを学んでいた。また学生の記述より、指導者から「居室にいる寝たきり状態の利用者にも声をかける」「ベッドサイドの耳元で目線を合わせ優しく声をかける」など、すべての利用者に関わりを持つよう指導を受けていた。さらに、コミュニケーションには言語、非言語、準言語など色々な方法があり、自分にあった方法を見つけ、利用者がよりよい生活を送るには利用者の想いを知ることが重要である

ことをこの実習で学んだと考えられる。

また、学生の記述より、学生は「多くの年月と経験をされてきた先輩であるため、言葉遣いに気をつける」「正しい敬語を使うこと」と言葉遣いに関する初歩的な指導も受けていた。生活支援をしていく中で基盤となるのが倫理観である。齊藤ら⁸⁾は、介護職としての倫理が伴わなければ、利用者との関係形成に支障が生じ、結果的に利用者へのケアの低下を招くと述べている。この倫理観は対人援助をする者には欠かすことができない。学生は、職業倫理を介護現場で指導してもらうことにより養成校で学んでいる知識と結びつけ、専門職としての自覚と人としてのあり方を改めて考えることができるのではないかと推察できる。倫理観は実際介護現場に就職するうえでも非常に重要な基盤となる考えであり、利用者だけではなく、倫理観が無ければ職場の関係作りにも支障が出てくると考えられるのではないだろうか。

3) 介護福祉士としてのやりがいから

表3、表8、表9より介護福祉士のやりがいでは、利用者とのかかわりが大きく関係していた。利用者の笑顔が、介護福祉士の仕事のやりがいにつながり、人生の先輩である利用者から多くのことを学んでいた。学生は、直接利用者に触れるなかで介護職の魅力も教えてもらった実習となっている。

学生は、生活支援を行う介護福祉士は「利用者から多くのことを学び、人生を学べる」として成長できる仕事であると考えている。人生の先輩である利用者との関わり向き合うなかで、信頼関係を築き、知識や考えや多くの学びを得て、自分を見つめ成長できる機会となることが明らかになった。

また、学生の記述より、学生は生活を支援する介護福祉士について、「ありがとう」と人から感謝される仕事に誇りを持っている記述も多くみられた。「一番近い立場で関わることができる仕事」であるからこそ、利用者の変化（利用者の状態や感情）に気づき、よりよい生活となる支援ができることがやりがいにつながることも実習で感じている。こうしたことは、直接利用者に関わるからこそ、ダイレクトに利用者の想いや変化に気づくことができ、それが喜びや感動につながるのではないかと考える。

さらに、学生は人の人生や命を預かる仕事ということも実習で感じていた。吉田⁹⁾は、介護は適切な介護がなされるかどうかによって、介護を受ける人にとってQOL（生活の質）を大きく左右する。のみならず、

生活や生命を支える「命に関わる」仕事であると述べている。学生は「介護職は簡単にできない」「命を支える責任がとても重い仕事」であると記述していた。実習で介護福祉士の関わりがその利用者の人生に大きく影響しており、利用者の一日一日を大切に利用者とかかわらなければならないことを理解していた。また、「リハビリで歩けるようになる」「リハビリ時に笑顔」などリハビリが利用者の生活に関連していることもわかった。日頃の思いを他職種とも共有していく必要がある。介護は奥深い仕事であり、介護福祉士の存在意義も実習で理解できたのではないかと考えられる。

八巻¹⁰⁾らは、専門性向上に向けて研修を継続するという意欲や意識とそれを支える自己研鑽しやすい環境づくりが必要と述べている。立ち止まり、自分のケアを振り返り、利用者によりよい生活とは何か考え、実践する。その積み重ねを行うことでやりがいにつながり、今後、介護のやりがいに反映されるのではないだろうか。

4) 学生の考える介護のやりがいとは

(1) 利用者・指導者との関わりの中で必要な指導

学生は、個別的な介護をする上でメモを活用すること、メモを見て確認すること、メモを基に目標を明確にし、指導者に伝えていた。学生は、実習生として敬語を使う、メモをとるなど基本的な指導が介護を学ぶ上で重要であるか気づくことのできた実習であった。

介護は、利用者が望むよりよい生活を目指すものである。その人らしい生活は個性が高く、個々の利用者にとって何が必要であるか、瞬時に判断する仕事である。しかし、 $1 + 1 = 2$ というように答えが決まっていなくてもゆえに、ストレスを抱えやすい仕事である。メンタル面をサポートできる体制があれば、それぞれの実習段階で抱える悩みも軽減し、介護という仕事に向き合いながら、利用者の想いに沿った生活支援を考えることのできる実習環境となる。

(2) 介護技術の指導の充実

介護技術の中でも特に、車いすへの移乗は介護者の支える手や足の位置を変えるなど、尊厳や安全の観点からも様々なやり方（介助方法）がある。学生は車いすの移乗に関してどの介護技術よりも個別性の高いことを学んでいた。なぜこのような方法で行っているのか根拠ある介護を学ぶ機会となっているのではないかと考える。介護技術の手技だけでなく、尊厳を守りながらも安全に配慮するといった介護の基本理念を基に一人ひとりに合った介護技術をアセスメントし実践し

ていた。

また、利用者の安全な生活を支えるうえで、介護福祉士の安全な姿勢や環境を整えていくことも重要である。そのためには介護者の身体に負担が少ない介護技術を指導できる介護福祉士が必要となる。それぞれの介護現場で介護技術の指導体制を整えば、学生は、介護実習が充実したものとなり、介護の質の向上にもつながり、介護現場ではやりがいに通ずるものになると考える。

(3) 対人援助職として利用者のとらえ方、かかわり

全ての利用者にコミュニケーションを図るようにと指導を受けている学生が多かった。学生は、話しやすい利用者に声をかける傾向があるが、対人援助職としてよりよい介護を実践するには、全ての利用者にコミュニケーションを図ることが必要な視点となる。

また、学生の記述にあるように、「利用者さんがいるから、こういう仕事ができている」といった利用者に興味を持ち、関わりを深め、利用者をどうとらえていくかということが、対人援助職として大切な視点であることを学生は学んでいた。この視点が、対人援助職のやりがいにも影響するのではないかと考える。

(4) 介護福祉士としてのやりがい

利用者の気持ちを察すると、その想いに応えきれないときストレスを抱えやすい仕事でもある。しかしその反面、学生は、利用者に直接かかわるからこそ、利用者からの「ありがとう」という感謝の言葉に歓喜し、利用者の笑顔を引き出すことがやりがいにつながると感じているのではないかと考える。

5. 結 論

本研究では、将来介護現場を担う学生の視点から介護現場のやりがいとは何か把握することを目的とした。その結果、学生は、個別的な介護をする上でメモを活用すること、メモを見て確認すること、メモを基に目標を明確にし、指導者に伝えていた。学生は、実習生として敬語を使う、メモをとるなど基本的な指導が介護を学ぶ上で重要であるか気づくことのできた実習であった。また、介護技術の手技だけでなく、尊厳を守りながらも安全に配慮するといった介護の基本理念を基に一人ひとりに合った介護技術をアセスメントし実践していた。利用者の気持ちを察すると、その想いに応えきれないときストレスを抱えやすい仕事でもある。しかしその反面、学生は、利用者に直接かかわ

るからこそ、利用者からの「ありがとう」という感謝の言葉に歓喜し、利用者の笑顔を引き出すことがやりがいにつながると感じていた。

今回は、1年時の集中実習後の学生の振り返りレポートを分析しており、全ての実習を終えての介護のやりがいを分析できておらず、結果を一般化するには十分ではない。今後も継続して学生の考える介護のやりがいを明らかにしたい。

6. 謝 辞

本稿にあたりご協力下さいました学生の皆様に深く感謝申し上げます。

7. 文 献

- 1) 内閣府：高齢化の現状と将来像。平成28年版高齢社会白書（全体版），pp2—6，2016。
<http://www.8.cao.go.jp/whitepaper/w-2016/zenbun/28pdf/index.html>
- 2) 厚生労働省：介護保険事業状況報告（暫定）平成28年6月分。2016。
<http://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/osirase/jigyo/m/16/1606.html>
- 3) 厚生労働省：介護保険制度を取り巻く状況等平成25年。2013。
<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu/Shakaihoshoutantou/0000018735.pdf#search>
- 4) 日本介護福祉士養成施設協会：介護福祉士の統計データ。2016。
<http://kaiyokyo.net/data/index.html>
- 5) 奈良最先端科学技術大学院大学：ChaSen—形態素解析器，2016。
<http://chasen-legacy.sourceforge.jp/>
- 6) 荒井浩道：テキストマイニングとはなにか—その解析の仕組みと基礎的分析方法—：介護福祉学14, 52—60, 2015.
- 7) 赤沢昌子：初期実習後の自己覚知と自己理解：松本短期大学研究紀要16, 101—109, 2007.
- 8) 齊藤真木他：職場内における介護職員の新人職員に関する内容検討—プリセプターシップに関する調査と特別養護老人ホームの取り組み事例から—：松本短期大学研究紀23, 31—42, 2014.
- 9) 吉田直美：介護職の人材育成に関する一考察：日本福祉大学経済論集42, 149—168, 2011.
- 10) 八巻貴徳他：介護福祉士の専門性に関する研究—北海道介護福祉士会会員の意識調査結果から(第2報)：人間福祉研究14, 95—108, 2011.